

行政視察等報告書

平成29年5月29日

米子市議会議長様

会派名 信風

代表者氏名 中田利幸

提出者氏名 伊藤ひろえ



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	伊藤ひろえ
期日	平成29年5月24日から平成29年5月26日まで
<p>〔概要〕（年月日・場所・内容）</p> <p>「第25回環境自治体会議しほろ会議」</p> <p>【5月24日（水）】 移動（前泊）</p> <p>【5月25日（木）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション「～25周年記念～わがまちの取り組み四半世紀と環境自治体会議との関わり」 ・論点提起「生産地と消費地の連携による持続可能な地域づくり」 ・分科会1「自立循環型地域づくりは人づくり」 ・交流会 <p>【5月26日（金）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般発表 ・総括セッション「持続可能な生産と消費に向けて」 ・閉会式 	
<p>〔所感〕</p> <p>別紙のとおり</p>	
経費	旅費総額 74,377円

研修会参加報告

第 25 回環境自治体会議 しほろ会議

～生産者と消費地の連携による持続可能な地域づくり～

2017 年 5 月 25 日～26 日

北海道士幌町 士幌町総合研修センター

環境自治体会議は 1992 年に初めて北海道池田町で開催されてから、今年 25 回目を迎える。私は第 12 回いいた会議、第 15 回うちこ会議、第 17 回たじみ会議に参加し、本年度 4 回目の参加となった。

環境自治体会議は、産官学連携により開催され、開催地では市民の参加も呼び掛けられる。四半世紀にわたる各自治体の取り組みや、民間の取り組み、そして研究者の取り組みを踏まえて、『持続可能な地域づくり』『生産地と消費地の連携』の 2 つの論点を中心に議論された。

■全大会・総括セッション

小林士幌町長、前田綾町長、先崎元瓜連町長が取り組み紹介を行い、フロアからの問題提起もあり、田中法政大学社会学部教授がコーディネーターし議論が深まった。まとめとして、①環境と経済をどうつなげるか（くらしの中で循環させる） ②一気には実現しない、少しずつ確実に前へ進めていく ③人づくり、意識づくりが鍵（住民・首長・職員・議員）

■分科会

第 1 分科会

『自立循環型地域づくりは人づくり！』

綾町（有機農業振興係）入田氏、士幌高校学生、上士幌町（教育委員会）小堀氏の取り組みを聞いた後、地域・自治体が求める人材についてワークショップ形式でグループ討議を行った。①どのような人材を求めているか ②どのように人材を育てていくか ③活躍してもらうためには何が求められるか の 3 つに分けて議論（ワールドカフェ方式）。多くの参加者と意見を交わし、議論も交流も深まった。永見氏（環境省）より、ESD（持続可能な教育・様々な要素が広がる（育つ）教育が求められるというコメントをいただいた。

■一般発表

1. 未来シュミレーターと未来カルテによる地方自治体の持続可能性評価について

国政調査のデータから自治体ごとの未来シュミレーションを行い、自治体ごとのカルテを作成中。本年 12 月に完成予定。38 都道府県で人手不足となる予想。

その中で、出生率は2065年に1.44まで回復するシミュレーションでは、日本の人口が1億人を切る年が5年遅れるなど、様々な変化が報告された。

2. 中高生が未来市長となって政策提言を行う未来ワークショップについて

2040年の社会の中心となるのは、現在の中学生・高校生世代である。未来カルテでわが町の未来を予測し、未来市長と仮定し課題と政策を考える取り組み。やちよ市、静岡県での未来ワークショップの様子とその効果を発表。

3. LAS-E IIを用いた環境基本計画の進捗管理と市民アドバイスによる政策の見直し

自治体の環境マネジメントシステムとしてLAS-Eを実施・運用してきたが、さらに見直し簡素化したLAS-E IIを報告。

総括セッション

生産者、消費者、政府・自治体の取り組みが各パネリストより報告される。SDG（環境省が提唱する持続可能な開発目標アジェンダ2030）の紹介があり、SPC（持続可能な生産と消費）議論をより深めるべきとのまとめがなされた。

しほろ会議宣言を採択し閉会となった。

（所感）

環境自治体会議に参加し、生産者、消費者、研究者、学生、自治体・国等、様々な立場の方々から取り組みや意見を聞くことができた。どの自治体も財政は厳しく経済優先のなかで、ともすれば環境については後回しになる現実がある。しかし、そこで持続可能な開発が重要となる。それぞれも、全く無関係ではなく、どの視点からも良い開発がなされるべきということがSDG'sの報告で理解できた。将来的なビジョンももち、それぞれの地域性を活かしつつ環境推進に向けていきたいと感じた。大変興味深い取り組みが多かったので参考にしていきたい。

研修会行程（会派：信風 伊藤 議員）

月 日	行 程	宿 泊 地
5 / 2 4 (水)	<p>10:22 10:27 10:36 10:40 10:52 11:10 12:15 13:50 15:00 15:43</p> <p>麴町駅 ===== 有楽町駅 ===== 浜松町 ===== 羽田空港 ----- 帯広空港 ~~~ 帯広駅(西口)</p> <p>メトロ有楽町線・新木場行 JR 山手線外回り モノレール AIRDO65 便 空港連絡バス</p> <hr/> <p>16:00 16:51</p> <p>*** 帯広駅バスターミナル 士幌信金前 *** 宿泊先</p> <p>徒歩 十勝バス・49 上士幌線・上士幌郵便局前行 徒歩</p>	<p>【宿泊先】 しほろ旅館 TEL：01564-5-2527</p>
5 / 2 5 (木)	<p>研修会「第25回環境自治体会議しほろ会議」（1日目） 10:00～19:00 場所：士幌町総合研修センター（北海道河東郡士幌町字士幌幹線167番地）</p>	
5 / 2 6 (金)	<p>研修会「第25回環境自治体会議しほろ会議」（2日目） 9:00～12:00 場所：士幌町総合研修センター（北海道河東郡士幌町字士幌幹線167番地）</p> <hr/> <p>12:15 13:45 14:30 16:15 18:30 19:50</p> <p>士幌町総合研修センター ~~~ 帯広空港 ----- 羽田空港 ----- 米子空港</p> <p>送迎バス AIRDO66 便 ANA387 便</p>	

5月23日（火）は平成29年度鳥取県市議会議長会臨時総会及び意見交換会に副議長として公務で参加。
そのため、政務活動は5月24日の宿泊先からの移動以降。

旅費計算表

平成29年5月24日 ～ 平成29年5月26日 (2泊3日)

第25回環境自治体会議しほろ会議
 (士幌町総合研修センター
 北海道河東郡士幌町字士幌幹線167番地)

月 日	区 間	鉄 道 路 線 名	区 間キロ数	目的地ま でのキロ 数	運 賃	グリーン	急 行 料 金		日 当 宿 泊 料		
							特 別	新 幹 線	議員1,500円 随 行 1,100円	甲 14,800円 10,900円	乙 13,300円 9,800円
5/24	麴 町 駅 ～ 有 楽 町 駅	外口			165				1,500		4,600
(水)	～ 浜 松 町 駅	JR									
	～ 羽 田 空 港	モノレール			630						
	～ 帯 広 空 港	飛行機			11,790	旅割28					
	～ 帯 広 駅	連絡バス			1,000						
	～ 士幌宿金前(バス停)	路線バス			780						
5/25									1,500		4,600
(水)											
5/26	会 場 ～ 帯 広 空 港	送迎バス							1,500		
(金)	～ 羽 田 空 港	飛行機			12,290	旅割28					
	～ 米 子 空 港	飛行機			19,590	旅割28					
計	議 員 旅 費			59,945	46,245	0	0	0	4,500	0	9,200
	随 行 旅 費					0	0	0			

出席議員 伊藤議員
 議員旅費 59,945 × 1名 = 59,945 円
 参加費 14,000 × 1名 = 14,000 円
 振込手数料 432 円
 旅費総額 74,377 円